

週報

令和 4 年 5 月 27 日

2021~2022年度 No.23

2021-22年度 国際ロータリーのテーマ



奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

国際ロータリー会長 シェカール・メータ

プログラム

S A A 三村 剛孝君

☆ 点 鐘

☆ ロータリーソング斉唱

「それでこそロータリー」

☆ 四つのテスト唱和 職業奉仕委員会

☆ 誕 生 祝

☆ 会長の時間

☆ 幹 事 報 告

☆ 次年度幹事報告

☆ 委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆ 部 内 卓 話

「ロータリー入会20年」

張本 民雄君

☆ 点 鐘

☆ 食 事 懇 談

現 在 会 員					前々回の欠席者 (5/13)							
本 日	出席 20名	欠席 6名					免除(a)欠席 3名	免除(b)欠席 3名	出席率	76.92%		
前々回	出席 18名	MU 0名					免除(a)MU 3名	免除(b)MU 3名	修正出席率	69.23%		
月別出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
	74.94	休会	休会	81.53	77.59	73.49	85.71	休会	70.49	69.74		
本年度前年度	83.33	87.63	79.27	76.75	80.65	80.27	全休会(0)	75.93	78.09	82.34	全休会(0)	80.48

例会場
例 会
事務所
カンパーナホテル TEL(0959)72-8111
金曜日(12時30分~13時30分)
長崎県五島市末広町8-4
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 山 下 克 己
副 会 長 吉 田 泰 之
幹 事 橋 本 武 敏
雑誌:会報委員長 出 口 雅 昭

誕 生 祝

出口 雅昭君(昭和43年 5 月27日生)ズバリ！



会長の時間

会長 山下 克己君

皆様こんにちは。

毎日過ごしやすい天気が続いています。昨日は朝から雨降り、午前中ずっと降っていましたが、雨量としてはわずかなもので、畑の方も表面を濡らす程度で、「恵みの雨」とはならなかったようです。畑に引かれている農業用水の水源も少なくっているのか、シャワーの網目が砂でつまようになってきました。水源の水が残り少なくなると、水に砂が混じるようになるようです。もうそろそろ、まとまった雨が欲しいところです。

本日は5月27日、5月度、第3例会、通算第23例会となります。23回目の会長の時間を務めさせていただきます。

今回も養殖の話です。昭和53年の創業から間もない昭和58年頃だと思いますが、養殖ハマチの主食がマイワシの頃です。このマイワシですが、ずっと以前は獲れ過ぎて畑の肥しにしたという話もあります。それでも獲れなくなって年々漁獲は減少して、昭和33年に始まった上五島若松地区の養殖業者は、マアジを餌にしたという話も残っています。それが45年頃から急激に漁獲量が増加し、それによって養殖の規模拡大につながったと言われています。ただ、このマイワシも劣化が早いなどの問題に加えて、チアミナーゼというビタミンB₁を分解・破壊する酵素を多く含んでおり、多くの問題を抱えている中、消費者の方からもワシが臭くて不味い、とか、脂肪が多すぎる、日持ちが悪いなど、多くの指摘を受けるようになりました。そこで言われたのが、肉質改善ということ

でした。私も、いち早く取り組みました。当時のハマチは、翌日は刺身に使えない。とまで言われたものでしたが、翌日もその翌々日を過ぎても、立派に刺身商材として通用するまでに改善が進みました。結果、昭和63年、今よりもっと小規模ながら加工場を始めることとなりました。

前置きが長くなってしまいましたが、「エビで鯛」という言葉があります。よく言われる言葉です。釣りをされる方は、当然エビが釣りに効果的なことはよくわかっていると思います。特に、魚はエビに対する嗜好性が強い。「どうしてなのかな」と考えました。調べているうちに、エビ類というのはあらゆる食べ物の中で、一番ビタミンの含有量が多い。しかも、バランスが良い。そこで考えたのは、魚は美味しいからエビを好んで食べているのかということです。学生時代に読んだ本にあったのを思い出しました。ようやく食事ができるようになった赤ん坊に、いろいろな食べ物を並べて好き勝手に食べさせると、だいたい必要なものだけを選んで食べるようだ。とありました。先入観がなければ、生き物は必要なものだけを選んで食べるということです。さらに調べているうちに、エビには消化酵素も多く含まれていることもわかりました。これを、先の肉質改善に利用しようと思いました。ちなみに、エビの消費量はその国の文化のバロメーターと言われています。20年ほど前までは日本が世界第1位でしたが、今はアメリカに追い越されているそうです。話を戻します。

肉質改善とはいえ、美味しくなければ人間界では通用しません。そこで当時は画期的ともいえる、モイストペレットという魚の餌に取り組みました。自前で餌を調合し、攪拌し、そして造粒までする。ある意味、どんな餌でもできる。そこで、設備の人と話し合って設備を作ってみました。なかなかうまく行きません。陸上施設はだいぶ前からできておりましたが、船上タイプとするには相当小型化する必要がある。という問題と、調合・攪拌部分と造立部分からなるものですが、これまでの陸上方式では問題がありました。連続して造粒できない。つまり、連続給餌ができない。そこで、調合・攪拌の部分をツインタンクとすることにし、交互に造粒機に流すことで、連続して製造・給仕ができることとしました。少し自慢ですが、ツインタンクは私の発案です。現在、ツインタンクは常識となっています。このような設備の完成もあって現在に至っており、今やモイストペレットというのは業界では常識となっています。

現在、養殖魚は日本各地でその味を競うような状況です。次回は、魚の味について少々考えていきます。

以上で、会長の時間を終わります。ご情聴ありがとうございました。

幹事報告

幹事 橋本 武敏君

『その他』

1. 国際ロータリー2022年規定審議会決定報告書について

(回覧)

1. 例会変更のお知らせ(1件)
2. 福江中央ロータリークラブ週報 第23号
3. 第39回愛のチャリティ歌の祭典へのご協力について

次年度幹事報告

次期幹事 西上裕一郎君

第1回非公式理事会(書面議決)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、理事及び役員へ議題内容を記載した書面を郵送しました。

書面議決書に記載し、事務局へファックス送信をお願いします。(5月31日(火)締切)

委員会報告

出席報告

- ◆ 5月27日(免除(a)欠席者)
中村 博義君 植松 郁雄君 釜崎 洋君
- ◆ 5月27日(免除(b)欠席者)
佐々野邦久君 谷川 和啓君 清瀧 誠司君
- ◆ 5月27日欠席者
片山 雅文君 谷川 久利君 山下 実君
山里 一郎君 坂井 成光君 小畑 和男君

親睦委員会

スマイル報告

- ◇張本 民雄君 小畑さん、ホールインワンコンペお世話になりました。本日の卓話よろしくお願いします。
- ◇柳田 靖夫君 パートナーに恵まれて優勝しました。
- ◇山下 克己君 張本民雄さん、卓話よろしくお願いします。
- ◇中村 栄治君 //
- ◇中村 吉廣君 //
- ◇才津 喜彦君 //
- ◇西上裕一郎君 //
- ◇宮本 光藏君 //
- ◇寺澤 信義君 //
- ◇森田 大輔君 //
- ◇有川 真史君 //
- ◇吉田 泰之君 出口雅昭さん、誕生日おめでとうございます。
- ◇橋本 武敏君 //
- ◇戸田 博之君 //
- ◇中村 陽二君 //
- ◇平村 和弘君 //
- ◇神之浦文彦君 //
- ◇三村 剛孝君 //
- ◇出口 雅昭君 //

合計 22,000円

通算合計 565,000円

部内卓話

「ロータリー入会20年」

張本 民雄君



10日前の5月17日に、寺澤プログラム委員長からお電話を頂きました。前日にもゴルフの件でお

電話があったので、てっきりゴルフのお誘いかと思いきや、27日の例会で時間が空いたので、卓話をして下さいとのご依頼でした。ロータリーは断らない・・・いや？断れないので二つ返事でお受け致しましたが・・・題材は何でも良いので・・・と言われ、・・・悩みました。

丁度、卓話依頼があった5月17日は、偶然にも「私が福江ロータリークラブに入会させていた日」と同じ日でしたので、これも何かのご縁だと思い、本日は「ロータリー入会20年」と題して、お話をさせていただきます。

皆様がロータリークラブに入ったプロセス（経緯）は、それぞれ違うと思います。私の場合を振り返ってみますと、入会日が平成14年5月17日となっていますが、その2年位前からお誘いが始まりました。

実はそれ以前にも、2回のお誘いがありました。一回目は30歳前後・・・しかし、「J Cとの掛け持ちは無理」と言われ、二回目は40歳頃・・・この時も「廃業しているが、職業分類で同業者が居るからダメ」と、私の知らないところで色々と言がされたようです。私は何も知らず誘われたのですが、結果的に入会することができませんでした。

それから数年経って、元同業の方が退会されたとのことで三回目のお誘いを頂いた訳ですが、その時は入ることに躊躇する理由が四つ程ありました。

一つ目は、以前却下されていたので、今回もまた同じように否認されるのではないだろうか？ということ。

二つ目は、仕事上でお世話になっている大先輩の通福寺住職、安永克己さんが37代会長の時、本人自ら誘って頂いたのを断っていたのに、会長年度が終わって、そしてクラブを退会されたその年度に入会したら、安永住職からどのように思われるだろうかと考えた時に複雑な心境になったこと。結果的には、私の方から謝罪して事なきを得ましたが、胸中はあまり喜ばしいことでは無かったようです。しかし、やはり大人・・・そしてお坊さん、全てを受け入れて頂きました。

三つ目が、私は二十歳の時に父を急性心筋梗塞で亡くしましたが、その年齢が45歳で、当時の私は、その年齢を超すまでは健康に注意して生活しようと考えており、環境が変わるようなことはあまりしたくなかったこと。私の誕生日が4月25日なので、46歳の誕生日を迎えてから入会させて頂きました。

四つ目が、私は組織に属することが苦手で、群れることが嫌いだったこと。これは、あくまでも男性関係に限ってのことですが、学生時代から一匹猫（狼）で、仲間をあまり増やそうともせず、今で言う引き籠もりではありませんが、孤独を愛し、じーっと耐えることをあまり苦に思わない性格でした。

この四つの理由に加えて、誘われ方が軽かったことと、誘って下さった方がお断りしやすかったこともあり、入るとも、入らないとも言わず、時間が過ぎていきました。

そして運命の日、平成13年の12月某日を迎えます。その日はホテル上乃家で、ロータリーでは私の大先輩にあたる中村栄治さんのご自宅の新築落成のお祝の宴がありました。私の席が偶然だったのか？意図的だったのかは解りませんが、ロータリーのメンバーと同じ所で、お酒が入ると誰からともなくロータリークラブへの勧誘の話になってきました。私は、何時もの調子でのりくらしとかわしていましたが、そこに突然、佐々野邦久先生が割って入ってきて「今回断ったら、もう二度と誘わんとじゃっけんね！」と、言われて驚きました。私はその時初めて「本当に、真剣に、誘ってくれてたんだ！」と、思い知りました。

それからは前向きに考えるようになり、入会を決意するに至った訳であります。

私が入った年度の会員数は、会員名簿で54名となっていました。7月の新年度になると私は49番目に名前が書かれていました。そして、ロータリークラブに入ってみて、初めて入会することの大変さを思い知りました。

ロータリークラブには皆様ご存じの通り、自分が入りたくても入ることはできませんし、入会にあたっては多くの規定があります。

私が入会した時の会員の条件をご紹介します。これは、「手続要覧 2001年 ロータリアンの手引き 183頁 国際ロータリー定款 第5条 第2節 クラブの構成」に、次のように記載されています。

- (a)クラブは善良な成人であって、職業上良い世評を受けている正会員によって構成されるものとする。
- (i)一般に認められた有益な事業または専門職務の持主、共同経営者（パートナー）、法人役員または支配人であるか；または
- (ii)一般に認められた有益な事業または専門職務あるいはその地方代理店または支店において、裁量の権限ある管理職の重要な地位

にあること；または

- (iii)本サブセクションのサブセクション(i)または(ii)に挙げたいかなる地位からも退職していること

そして

以上のいずれの場合も、その事業所、またはその住居がそのクラブの所在地域内、もしくはその周辺地域にあることを要する。クラブの所在地域外、もしくはその周辺地域外へ移転する正会員は、理事会が承認し、さらに同会員が同一の職業分類に於いて依然として活動している場合、その会員身分を保持できる。会員が引退した場合、または3年もしくはそれ以上奉仕した会員が住居または事業場を移転したため、上述の地域に関する必要条件を満たすことができない場合、クラブは、同会員の会員身分をそのままの職業分類で維持することができる。

- (b) 各クラブは、一事業または専門職務に偏らない均衡の取れた会員身分を有しなければならない。5名またはそれ以上の正会員がいる職業分類からは、正会員を選出してはならない。但し、会員数が51名以上のクラブの場合、同一職業分類に属する正会員がクラブ正会員の10パーセントより多くならない限り、その職業分類の下に正会員を選出することができる。引退した会員は、その職業分類に属する会員数に含めてはならない。会員が職業分類を変更した場合、クラブは、これらの制限にかかわらず、同会員の会員身分を新しい職業分類の下で継続することができる。

- (c) R I 細則は、ロータリー・クラブ会員の会員種類を正会員および名誉会員と呼ぶと規定し、その各々に対する資格条件を定めるものとする。

- (d) 「クラブ」という語が不穏当な意味をもつ国々のクラブは、R I 理事会の承認を得て、名称にクラブという語を使うには及ばない。

と、なっていました。

現在でも、会員は「正会員と名誉会員」の二種類ですが、2001年以前は会員の種類はシニア・アクティブ会員、パスト・サービス会員及びアディショナル正会員の三通りがあり、2001年規定審議会ではこれらの会員制度を廃止して、正会員・名誉会員の二種類の会員制度を制定し、合わせて職業分類の原則も改正されたと、なっています。

そして、同年の手続要覧 ロータリー・クラブ定款 第6条 会員身分には、

第1節 全般的資格条件。本クラブは、善良な成人であって、職業上良い世評を受けている者によって構成されるものとする。

第2節 種類。本クラブの会員の種類は次の2種類、すなわち、正会員および名誉会員とする。

* 第2節に関する暫定規定—第6条第2節の他の規定にもかかわらず、2001年7月1日現在ロータリー・クラブの会員である何人も、2001年規定審議会で採択された制定案01-148による理由で会員身分を喪失することはないものとする。

第3節 正会員。R I 定款第5条第2節に定められた資格条件を有する者は、これを本クラブの正会員に選ぶことができる。

その他、第8節までロータリー・クラブに入会できる人について規定がされています。

このような条件をクリアーして、ロータリアンになれたんだなぁ～と思うと、思いは一入であります。

私は福江ロータリークラブに入会して、今月で20年を迎えました。そして何時の間にか、会員番号も7番目になりました。

ロータリーとは何なのか？例会に出席して、奉仕活動を通して、いろんな委員会を経て、そして、会長・幹事を経験して、地区のライラ委員、そして今年度は運良くガバナー補佐に選ばれて、さらには多くのロータリアンに出会って沢山のことを教えて頂きました。

ロータリーとは、「自分の職業・専門職務を通して、クラブの例会で自分以外の職業・専門職務の方々と学び合い、そして、その学んだ知恵を持って地域社会に、そして国に、さらには世界社会に奉仕をすることが、自分を成功に導いてくれると信じさせてくれる、哲学・思想・倫理を学ばせる学校・・・鍛錬の道場である」と、思います。

決議23-34の第1項に、『ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは、利己的な欲求と義務、および、これに伴う他人の為に奉仕したいと言う感情とのあいだに、常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は、奉仕—「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。』と、規定されています。

そしてロータリーの目的は、「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育む事にある」と書かれています。

そして、その実践方法として、

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事は全て価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業及び社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

と、4つを規定しています。

『ロータリーとは、「意義ある事業の基礎として根底に奉仕を置く」と言う、理想を追求する事を目的としたクラブ活動である。』と言っています。

「企業の根底に奉仕を置く」と言うのが、中心の概念であります。

これを抽象的な表現で表すと、「利己と利他の調和」と言う事になると思います。「ロータリーの言う奉仕」というのは、このことを言っています。これが、ロータリーの理想の実体だと思えます。

ですから、『ロータリーとは、「意義ある事業の基礎として根底に奉仕を置く」と言う、理想を追求する事を目的としたクラブ活動である。』と言うことになります。

それを端的に申し上げると、『自分の仕事をする時には、まず「お客様は何をして欲しいのか？ どうしたら喜ぶのか？」を考えて、その事を実行しなさい。』と、教えているのです。

そして、これはロータリーの二大標語、「超我の奉仕」と「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という、倫理原則に基づくものであります。

「これを実践すれば、あなたの仕事、そして事業は、必ずうまくいって儲かるようになります。これが、ロータリーの考えである。」と、言ってくれているのです。

ここに集まった、福江ロータリークラブのメンバーで、最初から同じ志で入った方はそう多くはないと思います。しかし、ロータリーという大きな世界から見れば、ロータリークラブに入会できた方というのは、奉仕ができる素材をもった方ではないと入ることができないと思います。ただ、正しい奉仕の仕方が・・・さらにはもっと大事な奉

仕の仕方がわからないだけではないでしょうか？ロータリークラブの使命は、そういう本当の奉仕ができる方を育てることにあると思います。

12年前になりますが、先月ご逝去された北島博志さんが会長の時、私は幹事をさせていただきました。地区大会が島原であり、当日は大会前に会長・幹事会があるとのことで、島原に前泊することになりました。それを聞かれた今は亡き嵩則雄先生が、「僕も前泊するから一緒に行こう」と誘って頂きました。

嵩先生は、大波止からタクシーで行こうとおっしゃいましたが、私の取引先の社長が自家用車で送ってくれることになっていましたので、一緒に乗って頂きました。その車中、運転手を引き受けてくれた社長は自己紹介の中で、自分が長崎のライオンズクラブの会員であることを先生に告げると、「ロータリークラブやライオンズクラブの会員と言うだけで、安心して話ができる、お付き合いすることができる。」と、しみじみとおっしゃいました。

長年にわたりロータリー活動を実践して来られた嵩先生から、「ロータリーのバッジをつけた以上は、それにふさわしい人になりなさい。」と教わりました。

また、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」との諺がありますが、「知ったかぶりは良くない・・・解らないことがあったら、先輩ロータリアンに聞きなさい」とも教えて頂きました。

ロータリークラブには、日本に9万人弱の、そして世界には、120万人近くの会員がいます。その多くの方々と太いパイプで繋がっていることを誇りに、自分のできる奉仕を少しずつでもしていけたらと思います。

最後に、後1ヶ月余りで今年度の私のガバナー補佐としての役目も終わります。コロナ禍で対面での活動には多くの制限がありましたが、多くの方々とのご縁を頂きました。

皆様から選んで頂いたことに、心から感謝を申し上げます。そして10年後、又ガバナー補佐の役割が福江ロータリークラブに回って来ます。その時は、どうぞ皆様、率先してガバナー補佐を受けて下さい。なられた方は、必ず素晴らしい経験が出来る事、請け合いです。

本日は、ご静聴頂き有り難うございました。